

ジオカレッジ 歴史掘り起こしプロジェクトについて

～田舎の歴史の保存について・お寺が記録する歴史～

(一社) ジオカレッジ 理事

九州大学地球惑星科学部門

清川昌一

はじめに

今年も「夏スクール」(4年目)を無事に終えることができました。参加者も少し増え、東京や神戸からも参加されるようになりました。そして、1回目から参加している常連の児童も今では6年生となりました。これから明るい未来に向かって歩んでいくてほしいと願っています。開催場所は年ごとに変わってきましたが、2泊3日の田舎での「少し科学的な生活体験」は、きっと子どもたちの記憶に残るはずです。

さて、ジオカレッジの対象は子どもに限りません。活動の柱は、①自然を学ぶ、②歴史を復元する、③文化を伝承する、の三本です。対象はすべての人々であり、最終的には地域創生や限界集落問題に対する一つの可能性を示すことを目指しています。



実際の活動では、地域の方々や大工さん、地元のお母さん方にも協力いただき、盆踊り、流しうどん、郷土料理の提供などを行っています。ただ、それだけでは限られた人しか関われません。地域を本当に元気にしていくには、次のステップが必要であると考えてきました。その一つが「歴史掘り起こしプロジェクト」です。

田舎の生涯学習

地域の人々と共に集落に残る歴史を紐解く試みで

あり、ある世代には当たり前だった出来事も、次の世代にとっては紙に記された「歴史」になってしまいます。たとえば、私の生まれ故郷・福井はかつて一つの村で、文化や人間関係が豊かに存在していました。ある家は海まで自分の土地を通じて行けたという伝承が残り、立派な墓も現存しています。しかし、そうした歴史を知る人はすでに少なくなっています。山や生活文化の掘り起こし

ジオカレッジ構想が始まった5年前には、同級生のお父さんで地方創生に詳しい木村義隆さんからも話を伺いました。彼は「昔は1日2回山に登った」と話し、阿波山脈の尾根には防火用に広い道が作られ、村の若者が定期的に整備に駆り出されていたそうです。実際に登ってみると、尾根道は今も残っており、雑木に覆われながらも往時を偲ばれます。

阿波山脈の使われ方も香川側と徳島側で異なり、徳島側は国有林が多いのに対し、香川側は細かく私有地に区切られています。燃料や薪を得るために山を利用していた名残であり、生活資源として山が人々に密接に関わっていた証拠です。山が家の田んぼの様に配分され、そこでエネルギーや食料、木々の出荷による収入をえて生活していました。

生涯学習の難しさは、翌年には教えを伝える人がいなくなってしまうことがある点です。盆踊りを教えてくださった先生は病に倒れ、田舎の文化や山の防火道を教えてくれた方も2年後に他界されましたとともに私の小学校時代の友人の親御さんで、私のことを覚えてくださっていたからこそ協力していただけたのですが、その後は父も亡くなりました。私は45歳の時に『地球史スーパー年表』(岩波書店)を作りましたが、17年後に気づいたのは「年表には未來がある」ということでした。そして、過去は記録しなければ歴史上から消えてしまいます。だからこそ、過疎や限界集落問題が進む中で、面白かったとだけでも記録を残し伝える努力は、自らの存在後世に伝えるために欠かせないと考えます。そこ

まず、地域の歴史の枠組みを知りたく、できるだけ長い歴史を記録していそうなところ、「お寺」に着目してみたのです。

2024 歴史掘り起こしプロジェクト「お寺編」

歴史掘り起こしの初年度は、古くからの記録を残す「お寺」に焦点を当てました。福栄地区には3つのお寺があり、いずれも私と同世代の方々が住職を務めています。そこで「お寺の歴史と地域との関わり」をテーマに講話をお願いしました。現在の教育では、宗教が関連することはほぼ教えないことになっているようです。ただ、過去をさかのぼる時には、お寺や神社はその地域の中心であり、唯一記録が残っているところでもあるのです。3つのお寺にお願いしてお話しと内覧をしていただけることになりました。

第1回（正行寺／東山）

第2回（三宝寺／入野山）

第3回（宝光寺／東山）

1回目は6~8月に「やまびこ交流センター」で講話をいただき、2回目は実際に現地のお寺を訪ねて見学しました。檀家を越えての話なので、法事や葬儀で聞く内容とは異なる貴重なお話を伺うことができました。口コミで人を集め、毎回15~20名の参加がありました。

1) 正行寺

正行寺の御住職（赤松円心）は、私の同級生のお兄さんで、私の家は檀家でもあります。祖母や父の葬儀でもお世話になり、その語り口には定評があります。今回も感動的なお話をいただきました、地域の古い絵図「たらい谷」も見せていただき、大滝が荒々しく描かれているのに感動しました。

正行寺住職



ジオカレッジで子どもを連れて行った場所でもあり、歴史と現在がつながる瞬間でした。

また、正行寺の住職が「赤松円心」という名を名乗っていたことにも驚きました。ちょうどその頃、直木賞受賞作『極楽征夷大將軍』（垣根涼介）を読んでおり、足利尊氏の時代に活躍した僧兵・赤松円心の存在を知っていたからです。歴史と今が重なることに妙な納得を覚えました。



正行寺の内覧会

2) 三宝寺

三宝寺の御住職（赤松孝章）は私の母方の檀家であり、祖父母の葬儀でお世話になりました。住職のやさしい口調から誠実さが伝わります。洪水によるお寺の移転や、1722年の吉野川氾濫による山陰まで及ぶ台風被害の話もありました。広域に起きた災害記録は、過去を地震や洪水の規模や原因を復元する上で非常に重要な記録になります。



三宝寺住職

福栄の奥地にあるこのお寺は、巨大な菩提樹やキリスト教徒をまつた墓なども残り、宗派を超えた歴史が垣間見えます。訪問したときは銀杏が黄金色に色づき、美しい秋の午後を過ごしました。

私自身も小学校6年生のときに曾祖母を亡くし、家に黑白の大幕が張られ、地域の人々が台所を使って葬儀を進めていたことを思い出しました。



三宝寺

祖母との会話で「葬式用に湯飲みを残しておく」と言わされたことも忘れられません。しかし、祖母の葬儀の頃には既に葬儀場での家族葬が一般的になっており、湯飲みは使われませんでした。時代の変化を痛感しました。

3) 宝光寺

宝光寺は曹洞宗の由緒あるお寺で、現御住職（加部ひろゆき）は私の2年上の方です。幼少期には運動会で一緒に走り回った思い出もあります。今回は体調不良のため、弟子である北條せつおさんが代わりに講話をしてくださいました。鎌倉時代から続く歴史や、代々の住職交代のエピソードなど、人間模様を含めたお話が印象的でした。



宝光寺 北条さん

宝光寺は阿讃山脈の扇状地の最奥にあり、古い鐘楼や水子地蔵の数々など文化財も多く残されています。曹洞宗の特徴である「一仏両祖」の配置（道元禅師と瑩山禅師の間に釈迦如来）があり、歴史的な重みを感じました。



宝光寺の玄関

3つお寺について、拝見させていただき、話が聞くことができました。葬儀や法事とは違った視点でのお話しで、準備が大変だったと思われますが、さすがに喋りなれていらっしゃり、飽きない面白い話が聞けました。ご講演はきちんと録画しており、編集させていただき後世に残したく準備中です。このような記録も今後大事になると思います。

宗教離れが進む日本では、正月のお参りぐらいしかお寺や神社に行かなくなっていました。高齢化と少子化でますます社会が変わっていきますが、お寺や神社が持つ、日本固有の文化？の歴史は忘れてはならないと思います。静かなお寺で、改めて自分を見直すのも、歴史を感じて心が豊かになる気がしました。

今後の展望

プロジェクト2年目（2025年度）には、閉館となっている「白鳥温泉」を題材に、地域の人々と語り合う場を設けています。思い出を紡ぐことは、記憶の保持や交流の活性化につながり、生涯学習としても有意義です。温泉は深い歴史を持っているようです。住民の熱意も通じて白鳥温泉の再開に向けて市が動き出しています。

来年度（2026）は旧福栄小学校の歴史（建物）を掘り起こし、どれだけ記憶を呼び起させるかを楽しみにしています。写真をほりおこし、その周りで起こっている歴史も、みなさんと一緒に語り合えば、いろいろよみがえってくるのではと、期待しております。

＜筆者連絡先＞

九州大学地球惑星科学部門 準教授

（一社）ジオカレッジ 理事

清川昌一（きよかわ しょういち）

〒769-2712

香川県東かがわ市西山454-1（）

TEL: 090-5481-7019

E-mail: shoichikiyokawa@gmail.com

ホームページ geocollege.jp

インスタグラム geocollege_jp